2026.11.19

11/19（木）19:00-20:00 「2026 年度 2Q 決算電話会議」説明要旨

遠藤 CFO プレゼン

- 皆様、こんばんは、こんにちは。遠藤でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当社をご支援いただき、感謝申し上げます。
- それでは早速、中身に入りたいと思います。資料の 1 ページをご覧ください。

【Core KPI】

- こちらに、当社の Core KPI であります、EPS と ROE をお示ししています。
- まず、左側の EPS についてです。年初予想との比較を分かりやすくするため、株式分割前のベースで申し上げますと、2026 年度の修正予想は 516 円と、年初予想の 514 円から引き上がっています。これは、国内外における利益成長が牽引したものです。
- 右側の ROE についても、13.4%と、年初予想から 0.4 ポイント引き上がっています。これを、分子と分母に分けてご説明しますと、ROE の分子である「利益」が着実に伸びていることに加えて、分母である「修正純資産」が、自己株式取得や、円高による海外子会社純資産の円換算額減少により、年初予想対比で小さくなることによります。なお、ROE は 13%程度と、横ばいで推移しております。これは、政策株式の売却によって含み益を実現し、現金化していく過程で、分母の純資産が拡大し、政策株式ゼロを実現する 2029 年度までは、ROE に一時的な下押し圧力がかかるためです。今は、政策株式売却によってリリースするリスクキャピタルを、より ROR の高い事業へ再配分し、更なる利益成長、そして ROE 向上を実現していく過程にあるものと、ご理解いただければと思います。ROE の推移と計算の詳細については、Appendix の 43 ページに記載しておりますので、併せてご参照ください。

【26Q2 Results】

- 次に、2026 年度上期の実績についてご説明します。2 ページをご覧ください。
- 左側の Total Business Volume、すなわち、トップラインにつきましては、グループ全体で、前年同期対比+13%の増収となりました。国内外の保険事業が成長を牽引し、年初予想の増収率 8%に対して、順調に進捗しています。このうち、International 事業では、円安の影響に加えて、北米拠点を中心に着実に引受を拡大したことで、前年同期対比＋18%の増収となりました。Japan 事業も、損保と生保を合わせて+6%の増収となり、グループ全体として概ね計画通りの進捗となっています。

- 次に、右側の「修正純利益」は、前年同期対比+9%の 5,247 億円となりました。年初の通期予想に対する進捗率は 55％で、こちらも計画に沿った進捗となっています。
- 事業別に見ますと、International 事業では、中東戦争に係る大口事故や、Greensill 関連のリザーブ積み増しはありましたが、前年同期対比で+7%の増益、年初予想に対する進捗率も 54%と、計画をやや上回って進捗しています。足元、欧米市場ではソフト化の影響が見られます。当社はレートサイクルの影響を受けにくい、分散の効いたポートフォリオを構築していますが、ソフト化と無関係ではありません。こうした環境下では、ボトム重視で規律ある引受を徹底することが重要だと考えております。その結果、北米ピアの決算を見ても、当社の北米事業は、全体として競合を上回る収益性を維持しており、相対的にレジリエントであると評価しています。
- また、Greensill 関連についてですが、一連の訴訟は今般、全て解決・終了しておりますことをご報告します。具体的には、5 月に Greensill Bank と、9 月に Credit Suisse と、10 月には残りの訴訟についても、当社として許容可能かつ合理的な内容で和解に至っております。決算への影響については、損失の大宗を 2025 年度決算に織り込み済で、2026 年度にも若干の追加損失が生じましたが、International 事業全体の業績に対する影響は軽微です。なお、この損失は、スライド上では APAC の損失に含まれています。
- 次に、Japan 事業ですが、自動車保険の料率改定効果に加え、火災保険や Specialty における収益改善等により、前年同期対比で+16%の増益となり、年初予想対比でも進捗率 60%と、計画を上回って進捗しています。

【2026 Forecasts】

- 続いて、3 ページをご覧ください。2026 年度通期の修正予想について、ご説明します。
- 左側のトップラインは 9 兆 5,650 億円。年初予想対比で 330 億円の上方修正、前年対比では+9％の成長となります。
- 事業別には、International 事業において、北米を中心とした上期の好調な実績に加えて、下期も各拠点で引受拡大や更新契約のレートアップ等を見込み、190 億円の上方修正とします。Japan 事業では、主に Japan Life 事業の増収により 180 億円、年初予想から上方修正します。
- 次に、右側の修正純利益は、年初予想から 200 億円上方修正し、9,700 億円を見込みます。事業別に見ますと、International 事業は、年初予想から 120 億円の上方修正です。中東戦争や Greensill 関連の影響はありますが、自然災害ロスが想定を下回っていること、ソフト化の中にあっても保険引受が堅調であること、そして、米金利上昇に伴いインカム収益の増加を見込むためです。
- Japan 事業も 120 億円の上方修正です。自動車保険のロスコストの悪化はあるものの、自然災害が当初の想定を下回っていること、Specialty の収益改善、そして、運用の好

調によるものです。

- なお、報道でも見られますように、足元、サイバー被害が増えております。保険会社としての当社の働き・スタンス等については、47 ページに記載の通りですが、今回の修正予想は、直近の状況を踏まえたものとなっております。

【Capital Strategy】

- 最後に、資本政策についてです。4 ページをご覧ください。
- 「当社事業の利益成長と、株主還元の拡大は整合的であるべきだ」という、私どもの考えに変わりはありません。
- まず、当社の株主還元の基本である、配当についてです。当社は、利益成長に応じて配当を持続的に高めることを基本方針としております。配当性向は、IFRS 修正純利益の 3 年平均に対して 50%程度を原則としていますが、今年度は会計基準および配当算定方法の変更のタイミングであることから、従来の J-GAAP ベースによる算定との継続性も考慮し、年初予想として 245 円と発表しておりました。今般、この年初予想 245 円を据え置くことと致しました。
- 続きまして、「自己株式取得」についてです。5 月に、年間予定額として 4,000 億円を公表し、このうち 2,000 億円は既に実施済です。
- また、これとは別枠で、Berkshire Hathaway への第三者割当の影響を相殺するため、3 月に公表した 2,874 億円の自己株式取得は、本年 7 月までに完了しております。ただし、当社株価の上昇により、予定していた株数を取得しきれなかったため、今回、追加で 800 億円の自己株式取得を決定しました。
- したがって、年間予定額 4,000 億円の残り 2,000 億円と、第三者割当の影響を打ち消すための追加 800 億円を合わせて、2,800 億円の自己株式取得を、本日開催の取締役会において、決議しております。

【まとめ】

- 私からのご説明は以上となります。
- 当社としましては、Aspiration 2035 の実現に向けて、引続き、経営戦略を着実に実行し、持続的な利益成長を通じて、EPS も ROE も引き上げていく、そして、資本市場の皆さまのご期待に応えていきたい、このように考えております。
- 引続きのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

以 上